

メールは utsunomiya@yomiuri.com へ

## 創る Create

# 愛着ある石蔵 住宅に



大谷石蔵から生まれ変わった住宅の前で談笑する高橋さん(左)と吉川さん(宇都宮市内で) 山崎撮影



住宅内の娯楽室には陶芸コレクションが並び(宇都宮市内の高橋さん方で)

# 愛着ある石蔵 住宅に

## 大谷石 ルネサンス 最終回

# 被災し解体・再生



宇都宮市大谷石マップ



大谷資料館 石蔵利用レストランの先駆け



カトリック松が峰教会 日本では珍しい双塔の教会建築。1932年完成



平和観音 岩壁に彫られた高さ27mの戦没者追悼像



旧大谷公会堂 国登録有形文化財。1926年完成



宇都宮大工学部休憩所 がれきを活用。2013年度グッドデザイン賞受賞

## 小学生ガイド 地元文化を紹介

宇都宮大教育学部の「まちづくり研究室」で学ぶ4年生・上野由里加さん(23)は、卒業研究の舞台に大谷地区を選んだ。

研究テーマは「地元の子供たちがまちづくりを考え、参画することの意味を考察する」。7月中旬から市内の小・中・高6年生10人を何人も大谷地区へ連れ歩き、石材業者や観光施設へのインタビューなどを通じて、自由研究にいそしませた。9月下旬の研究発表会は、題して「体験! 大谷ツアー」。小学生らがツアーガイドをした清原南小6年生だ。

「ガイドを務め、年上の中高生に大谷地区の暮らしや文化を紹介した。ツアーでは、地下採石場の跡地や奇岩に囲まれた大谷景観公園、かやぶき屋根の旧家などを訪ね歩いた。小学生ガイドは代わる代わるスピーチを握って「採石場の跡地は一年中寒い。まるで天然の冷蔵庫」、「あの山の上の口蔵庫」、「あの山の口蔵庫」は、地元の人たちが落ちた石を故郷に運ぶために張ったもの」などと、一生懸命説明した。

「ガイドをした清原南小6年生だ。7歳の時に父が被災した。大谷石蔵は、子供の頃の遊び場。中学時代は2階に寝泊まりした思い出もある。『単なる物置ではなく、人生の一部』。再生の道を探り、親子で解体し、その石を利用して別の建物を築きたい。骨格は木材で組んだ。大谷石は柱の外側に積み重ね、中に鉄筋を通して補強した。屋根の重みは木が支える。大谷石はあくまで、内外壁の装飾材」(吉川さん)という構造だ。外見上は石造りだが、木造建築の平屋建て。行政のチェックも難なく通過した。

石蔵の素朴な美観と歴史を受け継いだ住宅は、昨年12月に完成した。スペースの3分の2ほどには親族が居住し、残りは高橋さんが陶芸コレクションなどを飾る娯楽室に利用している。工事は安上がりではなかったけれど、気にならなかった。あの石蔵が生まれ変わり、心から安らげる空間ができた」と、充実感でいっぱいだ。

大谷石のある街の景観作りを取り組むNPO法人「大谷石研究会」によると、宇都宮市内では石蔵をレストランなどの店舗に活用する例は少なくない。吉川さんの取り組みで、一般住宅へ再生する道もひらかれた大谷石。吉川さんは「大谷石の建物への愛着を抱く人は多いはず。地域の魅力が薫る住宅づくりが広がれば、大谷石に新しい時代が訪れるかもしれない」と夢を膨らませる。



奇岩を前に、子供たちが交代で研究成果を発表(大谷地区の大谷景観公園で)

第6回 最終回

- 29 足銀 来月19日再上場 (写真は手都宮の足利銀行本店)
- 28 青矢印で「自転車は車道」
- 29 野木の水道水からカビ臭
- 27 渡良瀬川にサケ続々
- 31 美術館・博物館ガイド
- 33 私立高志望校校り準備を
- 37 おくやみ

大前神社おまつり 11月16日開催 (午前8時~午後4時まで) お問い合わせ 02885(8)4(8)6000